**平成２２年度　第一学期　終業式　校長の話**

平成２２年７月２０日（火）

　みなさん、こんにちは。

　秀峰生が一期生から三期生まで揃っての一学期もあっという間に終業の日になりました。充実した一学期が過ごせましたか。（口蹄疫関係で大変な状況が続いている。）

　本年度の一学期も、みなさんの頑張りが目立ちました。部活動における新体操、ウエイトリフティング、ハンドボール男女の県内外での活躍だけでなく、囲碁や情報処理も全国大会出場権を得たり、工業・商業の資格取得でも高い合格率を出すなど、本当にいろいろなことによく取り組んできたと思います。今後もこれらの全国での活躍が期待されるところです。（全国高総文祭宮崎大会でも「おもてなし日本一」の働きを）

　※ものづくり（旋盤作業、電気工事の県大会優勝）、野球１：２の惜敗

　３年生は、７月１日の求人票の解禁以降、進路について今まで以上に真剣に考え、９月からの「戦い」に備えて、この夏を進路目標達成のために充実させようと、意欲にあふれているはずです。その姿を１・２年生も見て、今、どうあるべきか、何をすべきかを考え、実行してほしいと思います。（求人は、昨年度以上に厳しい状況）

　さて、始業式や入学式で話した内容を今一度思い出してみてください。

　　・「秀峰ブランド」の確立・・・・始業式

　　・「目標」「素直」「切磋琢磨」・・・入学式

これらを意識した日々を過ごせたでしょうか。「まだまだ、君たちの能力からして、こんなものではない。」というのが、実感です。挨拶や礼儀作法、日頃の振る舞いにしても、もっと高いレベルを目指してほしいと思います。また、一緒になって、自らを磨いていける友がすぐ近くにいるのに、お互いがその環境を生かし切っていないと思われます。本校のよさは、勉学や部活動など様々な活動を通して、これからの社会を生き抜いていける力「生きる力」：「人間力」をも身に付けられるのが特長だと考えています。

　みなさんが、「本校で学んでよかった」と心から言えるようになってほしいので、一学期を終わるにあたり、今後のために、これから話すことを心掛けてほしいと思います。

　○「自分のよさ」を積極的に見せるようにしよう。

　　　みなさんは、日頃、外部の人から見られている。そのことをもっと意識

した言動をとってほしいという話を６月３０日の壮行式でしました。その

後、このことをいろいろ考えてみました。そして、見られていることを前

向きにとらえれば、積極的に見せることで、評価してもらえるように活用

してはと思いつきました。自分のよさやよい結果を見せるためには、そこ

に至るまでのプロセスが必ずあるはずです。「何が悪いのか」考える。「ど

うすればよくなるだろう」と試行錯誤する。その過程で、人間としても成

長していくはずです。

　７月５日（月）夜10時からのNHKテレビ「こころの遺伝子」で、プロ

野球楽天の名誉監督で野球評論家の野村克也氏を迎えて、彼の野球人生を

変えた原点を探るという番組がありました。その中で、生徒指導主事で、素

人でありながら野球部長となった恩師清水先生の言った言葉が印象的でした。

　「技術の前に、人間を磨け」・・・人間を磨くことで技術も向上する

このことは、全国的な活躍をしている本校の部活動生が、みなさんの目の前でも見せているし、みなさんも見ています。そういう環境の中に、みなさんはいます。

　野村氏の本を久しぶりに開いて、「人はプロセスでつくられる」という言葉を読み返しました。

　・結果の裏側にはプロセスがある。

・よい結果というものは、きちんとしたプロセスを経るからこそ生まれる。

・よい結果を出すためには、どういうプロセスをたどるかが非常に重要である。

・「鈍感は最大の罪」　感じる力を持っていなければ、眠っている素質を開花させることはできないし、技術的にも精神的にもそれ以上の成長はありえない。

・「感性を磨け」　感性に優れた選手は必ず伸びると日頃から言い聞かせている。

　　　監督の立場から考えれば、いかに「気づかせる」かが大切だということになる。

　　　すべてを教えてしまっては、選手は気づかないし、気づく力を獲得することもできない。

　　　「監督は気づかせ屋」である。

　　　監督は、ヒントを与え、選手が自分自身で気づくように仕向けなくてはならない。

　　　そうすることで「何が悪いか」選手は考える。

「どうすればよくなるだろう」と試行錯誤する。

その過程で技術が進歩し、人間としても成長していく。

「人間を磨く」「感性を磨く」ことで、「見られている」から「見せる」へと意識を変え、もっと高いレベルの高校生に変身していこうではありませんか。

　もう、夏休みの計画を立てているかもしれませんが、それをもっとしっかりしたものにし、夏休みを充実させるために「有言実行」（だまって実行：不言実行ではなく、公言して実行）の姿勢で臨み、日々実行していってほしいと思います。

　充実した夏休みを送り、さらなる成長をしたみなさんに会える二学期を楽しみにしています。